

“いつか着るのが夢だった花嫁ドレス”を着せてあげられた事

生涯独身で、結婚には縁が無かったご利用者（C様）についてです。

C様が看取り状態になってから、北海道に住むご家族より、ご本人が生前若い時に用意されていた、花嫁ドレスを送ってこられた事がありました。

C様は、確か90代でした。コロナ禍の時期ではありましたが、在宅酸素療法も開始していました。ドレスが届いた当初、私は良く分からなかったため、相談員さんに頼み、ご家族に確認をして頂きました。届いたドレスはC様が、いつか着るのが夢でと、用意していた物だと分かりました。

そこで、ユニット職員で協力し、C様にドレスを着せて写真撮影を行いました。ご本人が会話も認識も出来るうちに、ドレス姿を見せてあげようとなりました。体調の良い日に撮影することが出来、C様は「やっと着られたんだね。」と一言話し、喜んでいました。

C様が亡くなった後、ご家族に、撮影した写真をアルバムにまとめ、お渡ししました。

C様の夢を、最期に叶えてあげられたことはチームとして、ユニットみんなの想いが形になった瞬間は思い出になりました。

（特別養護老人ホームカメリア・介護職）

